

体験学習をどうぞ 020

2023.1.16(月)

【中学1年数学】

方程式

同じ量を2通りに表す(等置法)

きょうの体験問題です。

何人かの子どもがいます。この子どもたちに鉛筆を5本ずつくばると12本余り、7本ずつにすると4本たりません。
子どもの人数を求めなさい。

方程式の文章題の立式の基本的方法

方程式では、一般に、問題文に合計量を与えられている問題では、その合計量を求める等式を作ります。

合計量を与えられていない問題もある

ということは、合計量を与えられていない問題もある、ということです。

No.18がそういう問題です。

合計量はどこにも書いてありませんし、

No.16でやった差、No.17でやった倍も書いてありません。

さて、どうしましょう？

「ある1つの量」を2通りに表す

そこで新しい考え方です。

子どもの人数を x 人とする鉛筆の本数が2通りに表すことができます。

同じ本数ですから等号で結べます。

等式ができました。これで立式が完了です。

あとは計算だけです。

等置法

等しい量を探し、それを等号で結んで等式を作る解き方を「等置法」といいます。

No.18では、等置法による方程式の作り方を覚えていただきます。

■ 演習問題は、数専ゼミ・山形・東原教室で個人指導を受けることができます。



中1 数学・方程式 No. 1 8

1 解き方の基本（その4）

体験学習

■ 同じ量を2通りに表す（等置法） ■

■ 「中1 数学・方程式」★学習計画書★

[（ブラウザのバック矢印でこの文書に戻ることができます。）](#)

方程式に強くなる数学専門指導の数専ゼミ

数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: suusen@seagreen.ocn.ne.jp